

<<最終更新日：2017年03月18日>>

[English](#)**基本情報**

時間割コード／Course Code	101794
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
曜日・時間／Day and Period	火3
開講科目名／Course Name (Japanese)	日本語教育学演習 a
教室／Room	日本語実
開講科目名(英)／Course Name	Seminar in the Teaching of Japanese as a Second Language
定員／Capacity	0
ナンバリング／Course Numbering Code	10FOST3BR01
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	3,4年
担当教員／Instructor	真嶋 潤子

[授業担当教員一覧](#)**詳細情報**

講義題目／Course Name	日本語教育のための模擬教壇実習
開講言語／Language of the Course	日本語
授業形態／Type of Class	実技科目
授業の目的と概要／Course Objective	日本語の授業を組み立て、教壇に立つための基礎的な知識や教育活動の基礎を学ぶ。前半は媒介語のない状態での教室作業を多様な言語を教えることを実習し、後半には日本語の教科書を使った日本語初級文型を教えるための実習を行う。
学習目標／Learning Goals	初級日本語教育の基礎的な技法を身につけることができる。学習者の立場に立って、直接法で外国語を指導する際の留意点が理解できる。プロの日本語教員になるために、自分に何が 필요한のか考える機会を得ることができる。
	日本語教育学の授業（「外国語教育」を含む）をなるべく多く履修していること。 日本語教育のプロを目指す受講生を想定して

履修条件・受講条件／Requirement / Prerequisite	<p>いる。</p> <p>「日本語教育実習」の履修のために必要な準備科目である。</p>
授業計画／Class Plan	<p>日本語教育の現場で教育実習をする前段階として、前半では日本語以外の言語を使って、受講生全員がマイクロティーチングの形で模擬教壇実習を行い、お互いにコメントを加え、どのような指導が有効かを考え、教室での指導技術を身につける。後半には、教える内容を日本語初級文型にする。</p> <p>マイクロティーチングの様子は、ビデオ録画をし、発表者が後で見られるようにする予定である。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回～15回 教案検討と模擬教壇実習</p>
授業外における学習／Independent Study Outside of Class	<p>一学期に2～3回の教壇実習を担当するが、回数は受講者総数による。事前に教案を練っておくこと。</p> <p>先輩たちの日本語教育実習の記録（毎年の日本語講座年報や実習報告書など）を見ておくと良い。</p> <p>「良い言語教育の授業」「わかりやすい授業」の条件を考え、自己研鑽してほしい。</p>
教科書・教材／Textbooks	<p>授業で紹介する。</p>
参考文献／Reference	<p>『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ』河野俊之、小河原義朗著(2006)アルク</p> <p>『日本語の教え方ABC-「どうやって教える？」にお答えします』寺田和子他著(1998)アルク</p> <p>『日本語教科書の落とし穴』新屋映子他著(1999)アルク</p> <p>『日本語教授法ワークショップ 増補版』(2007)凡人社</p> <p>これ以外は、授業中に指示する。</p>
成績評価／Grading Policy	<p>全出席を基本とし、模擬教壇実習60%と教案40%を総合して評価する。</p>
コメント／Other Remarks	<p>履修希望者が多数の場合は、人数制限を行うことがある。「日本語教育学概論」を履修済みであること。</p>
特記事項／Special Note	<p>なし</p>

授業担当教員

教員氏名 / Instructor Name	所属・職名・講座名 / Affiliation, Title, Course	e-mail / E-mail
データがありません		

学生への注意書き